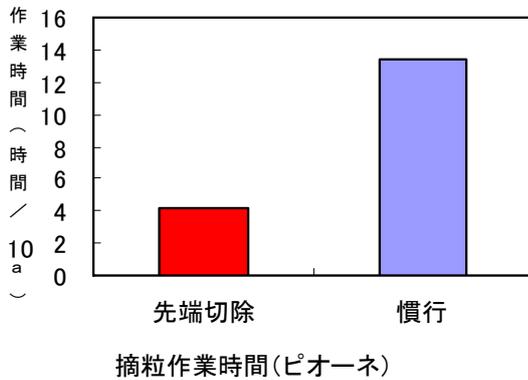
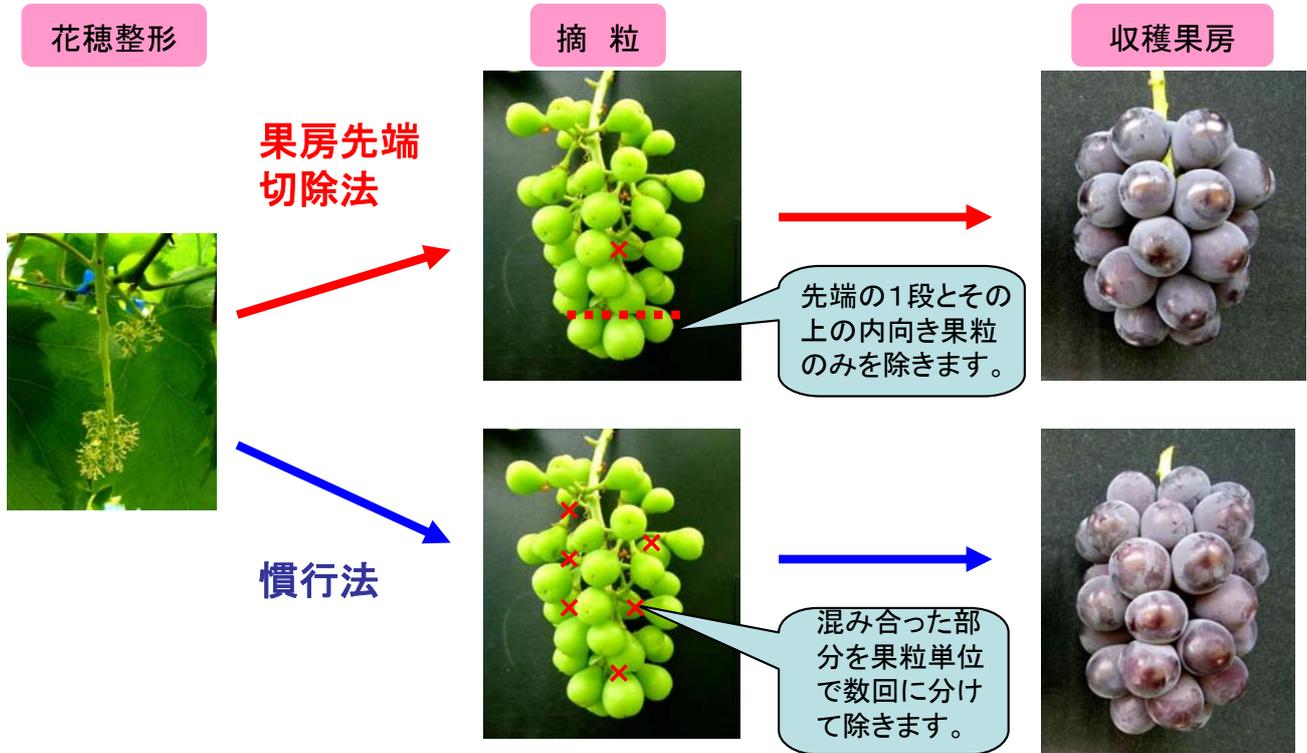


# 果房先端の切除で 大粒系ぶどうの房づくりが大幅に省力化

【背景・目的・成果】大粒系のぶどうは、果粒が大きく揃いの良いものが求められています。農家は摘粒時に混み合った部分の果粒を1粒単位で間引いており、その作業時間は房づくり(48時間/10<sup>a</sup>)の約3割を占め、省力化が課題となっていました。現地で先行的に実施されている”果房先端切除法”による摘粒作業が房づくりの大幅な省力化につながることを実証しました。



「藤稔」や「ピオーネ」では、摘粒時に果房先端の支梗を1段切除することにより、果粒の肥大する空間が確保されるため、ハサミで切除する回数が大幅に減少し、作業時間の短縮につながります。

果房先端切除法では、果房の形状がやや丸くなり、しまりが良くなりますが、食味や着色等品質には差はありません。

果房の形状と品質

品種	試験区	房長 (cm)	房径 (cm)	果房重 (g)	果粒重 (g)	裂果 (／房)	糖度 (Brix)	酸含量 (%)	種子数 (／粒)
藤稔	先端切除	14.2	11.5	719.9	19.1	0.5	16.8	0.4	0.1
	慣行	15.2	10.6	620.7	18.7	0.6	16.9	0.4	0.1
ピオーネ	先端切除	15.1	11.6	699.9	15.9	0.0	21.5	0.4	0.0
	慣行	16.1	11.0	715.9	15.6	0.1	20.9	0.4	0.0

## 【技術の活用】

栽培面積の多い「ピオーネ」、「藤稔」を対象に、農業改良普及センターや県果樹研究会と連携して普及を図ります。